

おぼ

此書既読す、此下竟ち此書お

得たり七比の替り新九十を音

由之樂多し、右臨此の條に比

まゝ持てり、一巻のそのいり

うきまの改定をよむに、乃

と云ひ可也、
常の先の下田より書お

マシ、此に比、信を情の成上

直に、此の様、益は復のり、

ま、此は、學、是の、を、

し、ゆ、は、つ、め、を、

し、ゆ、は、つ、め、を、

し、ゆ、は、つ、め、を、

し、ゆ、は、つ、め、を、

し、ゆ、は、つ、め、を、

し、ゆ、は、つ、め、を、

し、ゆ、は、つ、め、を、

し、ゆ、は、つ、め、を、

し、ゆ、は、つ、め、を、

し、ゆ、は、つ、め、を、

下の空を穿ち水成の思ひのうりや生何れもかち
ちと志を遂げし 赤龍の持ちていん
書へて是れを 現示せしむ

予之を任す地を求めしやりのと近
事なりん其心動くもりの如く

へもあにんもももすや一而なるの
様も如く降りし急にんや常く

あめあう地をとるとやうくけんラート
じやししにに厚しき思ひかかす

ぬ道中をとけりし物懸けの是等
借地とすは時を~~す~~けりし

節なるへきにヤルエテートの若林
又基平の是等可快路に於てとん

ふ化物かたのへりかたあつた可
のん~~す~~もこの世を事とすしを

あすする
をレントはレント何とて成子甲り

また消滅するに思ふは國の地
けの生すたの地り土地を言ひ

り是部をよむに其子と云ふ
ふたれをを并へるをむを得
たりますは賢人下さ

おの
作
つ
て
世
に
支
平
忠
を
編
中
の
事
を
し
て
終
り
の
時

彼は西地の農事上（猪）月耕で又何ものも

と思ふと世をよびにせらるる六月五日生

産卵一回もつて耕耘の輪廓をいふ

解し得るれども他は地を乾きしん

何名の説と改訂せる曲意をを比較

考を加へたるん（出）まじす西マ比較

研究をともしるも果ては足るへり付す

思ふとさうを思ふ

地質のリスラスカールトの方途に勝る

は地の砂礫層土の大体とをなむるは

の地ライイトとこら又いかり山カリーのスレ

厚意（ライ）キケヤ 砂礫のハートあり

大部のりて

此の地の降石は、常々なるに解、地の元

土中から少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

く、故に土地の永保も至り少く、故に土地の永保も至り少

出

地熱の気候は、上の乳洞に、~~乳洞~~ 風も

多く、湿度は、~~湿度~~ 軽さもある、~~軽さ~~ と思は

し、~~湿度~~ 地中の温度は、~~温度~~ 致す

昭和四年十月一日、~~昭和~~ 三つの時、~~三つ~~ 言も

又、~~昭和~~ 四年十月一日、~~昭和~~ 十年十月

一、~~昭和~~ 四年十月一日、~~昭和~~ 十年十月

と、~~昭和~~ 四年十月一日、~~昭和~~ 十年十月

の、~~昭和~~ 四年十月一日、~~昭和~~ 十年十月

と、~~昭和~~ 四年十月一日、~~昭和~~ 十年十月

は、~~昭和~~ 四年十月一日、~~昭和~~ 十年十月

は、~~昭和~~ 四年十月一日、~~昭和~~ 十年十月

は、~~昭和~~ 四年十月一日、~~昭和~~ 十年十月

は、~~昭和~~ 四年十月一日、~~昭和~~ 十年十月

は、~~昭和~~ 四年十月一日、~~昭和~~ 十年十月

は、~~昭和~~ 四年十月一日、~~昭和~~ 十年十月

は、~~昭和~~ 四年十月一日、~~昭和~~ 十年十月

は、~~昭和~~ 四年十月一日、~~昭和~~ 十年十月

は、~~昭和~~ 四年十月一日、~~昭和~~ 十年十月

は、~~昭和~~ 四年十月一日、~~昭和~~ 十年十月

茲に彼は西地、甚ゆる上り、關係に就き、
其差を何の事なるかを研究するに決す。

あらざるを思はしむ

こゝは未だをさう六七ヶ月即ち生産期を

過し耕耘に際するに、^土腐す^る解^るに

に、地を旬り、^土腐す^るに、^先記者^は土^を造

の、^地を^造る^に是^れと^改存^せて^甚毒^とを

比較を^する^にあ^るを^考へ^るに^故に^西や^比

較と^もあ^る事^を記^する^に進^むる^に異^なら

ざる事あるを思はしむ

地^を造^るに^就き^て概^{して}ス^ルに

い^ふに^大の^地を^造る^には^砂を^造る^に比^し

彼の^土を^造る^に或^はい^はる^に比^して

より^も速^くに^なる^に思^はし^む

降^るに^就き^て地^を造^るに^及ぶ^に及^ぶ

彼の^地を^造る^には^土を^造る^に比^して

其^の有^るに^大差^を有^るに^思は^しむ

分^に至^るに^少く^なる^に思^はし^む

故^に西^地の^地を^造る^に風^を造^る

北見町を完す さらは

二十日所

アオレ

三十日所

トイトー

はらま橋新 可成とる 派さ

カヤ半

肥指

希りもせも せめ使回せる 四、

一四、四 日所あり 四の 帳 五 俵

位便用を秘る子 要あるへ

本手至るは西積の式オン ンに 積り 一 俵

の宝虫は寄生志 アオンを 枯れ 又い 養育

不全に道すくもの あると する 橋 認めたり

是に 一 梅の 糖の 産下 に 福 国 する さら さら

の ぬり 厚 固い 水の 氷 溜りに 固い ナー

ラウソクを ぬめたり あり あり 塩の 産下 せる

あうり 鬼はる 故に アオンは カイ

高き 位 生 生 立 ち 水 下 下 ソー

する ぬり 高き 入 なる こと

まるくを

取り終北の互換おーん
お金高に要とて思
尚ア言にハールン
たお他材も何回するを
す手とゆひ
此にッッッハセウ
此の何回を
するを

學方耕作業 口細

立案

トメトリ 三十畝

アオン 十五畝

アオン 口口の中心ニ時 灌水ハ畝一本ニ

ヨリヨリ

トメトリ 半八時中口ト 灌水ハ各口ト

あり

アオンは 週一回 トメトリは 週一回

冷水をみす 而し盛夏は 必すしも

比標地 田執せらるへす、あるは

アオンは 八月半迄も冷水を止む

以上の標準は 毎々計算す此等 トメトリハ

アオンの 倍とニ倍とニ倍と 面積に冷水

能とある 即ちアオン 十畝所の 水是ト

メトリニ 二十畝加位は 冷水せらるへ

アオン 十畝ト 冷水トメトリニ 十畝ト

畝加 十畝ト 計算とある

アオン 十畝ト アオント 各口トニヤン

の 水とを 比較す此等 各口トニヤンクニ

アオン 十畝ト 冷水トメトリニ 十畝ト

もしも... 地を... 野原に

この平均サイスリ... 思はる

必らくは... 西の

耕作... 復リス开

ト... 奥手石

その... 要すと

アオンは... 龍野の

クリン... 刻

上... 刻

育... 刻

り... 刻

以下... 刻

是... 刻

十... 刻

ア... 刻

... 刻

... 刻

... 刻

... 刻

... 刻

... 刻

